

プロジェクト 持続可能な畜産を支える草づくり

目 標

- ・二毛作栽培による自給飼料の収量
R4：3,760kg/10a（青刈りとうもろこし） → R10：5,800kg/10a（青刈りとうもろこし+ライムギ）
（二毛作栽培による自給飼料の収量増加率1.54倍以上）

挑戦する内容

- ・自給飼料の増産
- ・持続可能な耕畜連携体制強化（もみ殻、稲わら、堆肥の有効活用）
- ・公共牧場の利用体制強化

関係者の声
=対話

- ・夏枯れ等の影響で粗飼料不足が見込まれたため、ライ麦栽培を開始した。二毛作栽培に対する支援をしてほしい。（生産者）
- ・夏枯れ被害が出ており、地域にあった作付体系を指導してほしい。（農業者）
- ・耕種サイドが稲WCSの作付けを継続してくれる支援が欲しい（JA）
- ・酪農経営の分業化のため、もみ殻等のストックヤードは重要（市町村）
- ・公共牧場の未利用草地等を有効活用していきたい（市町村）
- ・稲わら有効利用拡大に向け、サイレージは有効と考える。普及に向けて、畜産業者への周知に取り組んで欲しい（収集業者）

役割分担

- ・生産者・コントラクター組織：二毛作・稲WCS栽培、ストックヤード設置
- ・畜産団体・市町村：情報提供、普及啓発
- ・産技センター：現地指導
- ・県：研修会・協議会開催、調査実施

変革後の姿

- ・国産飼料の生産利用拡大により自給飼料が増産され、持続可能な畜産が確立
- ・津軽と県南地域でのもみ殻等の広域流通体制が確立

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 自給飼料の増産
 - (1) 稲WCSの生産利用拡大
 - ・稲WCSの生産利用拡大に向けた検討会、研修会、意見交換会の開催
 - (2) ライムギと青刈りとうもろこしの二毛作栽培の普及
 - ・二毛作栽培に係る資材代（種子・肥料等）及び、二毛作の飼料生産調製に用いる機械への支援
 - (3) 夏枯れ対策の推進
 - ・越夏性に優れた草種への変更に係る種子代への支援
- 2 持続可能な耕畜連携体制強化（もみ殻、稲わら、堆肥の有効活用）
 - ・耕畜連携に係る調査の実施
（対象者：畜産経営体、調査内容：もみ殻や堆肥、自給飼料の利用状況等について）
 - ・利用側を含めたストックヤード運営組織を設立し、具体的な運営方法について協議
 - ・稲わらサイレージの技術実証・普及
 - ・堆肥の利用拡大の推進
 【重点エリア（農林水産事務所別ミッション）】上北地域
- 3 公共牧場の利用体制強化
 - ・公共牧場の草地基盤を有効活用するため、利用状況調査の結果などを基に、地域単位の再編や事業で整備した牧場の利用率向上に向けて検討



二毛作（ライムギ）の収穫機

対話

- ・津軽・県南地域の双方で、ストックヤードの運営準備組織を設置し、具体的な運営方法について協議（6～7月）
- ・稲WCSの利用拡大に向けた検討会及び研修・意見交換を実施（8～2月）